

2021年 新入試 外部検定

TOEIC 成績提供システム 参加取り下げ

受験生への影響が心配される

旺文社 教育情報センター 2019年7月4日

TOEIC を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会は一昨日、「大学入試英語成績提供システム」への参加取り下げを公表した。すなわち、TOEIC はいわゆる認定試験からは外れることになる。その公表に続き、同システムを運用する大学入試センターも“TOEIC は大学入試英語成績提供システムに参加しない”とサイト上に公表した。

●新入試スタート前年度での認定試験取り下げ

受験生による認定試験の受検スタートまで1年を切った。すでに今年度からは経済的困難者や病気、離島僻地居住者・通学者などの現高2生の例外措置対応もはじまっている。

そんななか、TOEIC を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会としては、これ以上決定時期を遅らせることで受験生や保護者、そして学校関係者などに迷惑をかけられないとして、このタイミングでの認定試験の参加取り下げを公表した。(以下は、国際ビジネスコミュニケーション協会のリリースより抜粋)

『これ以上意思決定時期を遅らせることで、受験者の皆様はじめ、保護者、学校関係者の皆様にご迷惑をおかけしないように、当協会といたしましては、「TOEIC L&R および TOEIC S&W の大学入試英語成績提供システムへの参加申込を取り下げる」との判断に至りました』

2017年11月に大学入試センターより認定試験への参加要件が出され、TOEIC は、その要件を受け12月に参加申請をし、2018年3月に要件審査を経て認定試験と認められていた。その後、例外措置の対応や成績を提供するシステムなどの制度運用上の詳細が大学入試センターから公表され、各認定試験実施団体はそれらに沿って実施運営の準備を進めていたところだった。

●なぜ、ここに来て TOEIC は参加を取り下げたのか

TOEIC を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会のリリースに参加を取り下げた理由が以下のように書かれている。

『TOEIC Tests は 4 技能を測定できる試験ではございますが、TOEIC L&R と TOEIC S&W が別々に実施される形態となっております。本システムへの社会的な要請が明らかになるにつれ、それらに対応するためには、受験申込から、実施運営、結果提供に至る処理が当初想定していたものよりかなり複雑なものになることが判明してまいりました。』

確かに各認定試験の実施団体は、成績提供システムへの参加要件があらかじめ示され、それに沿って実施計画を申請して、認定がなされている。しかし、成績提供システムの詳細が明らかになったのはその後であり、実施団体からすれば、想定外の対応もあったのかもしれない。

また「社会的な要請」とあるとおり、TOEIC に限らず各実施団体への高校現場などからの要望は大きいと推察される。特に会場設置とそのキャパシティは悩ましい問題だろう。受験生があふれても困るし、会場がガラガラになってしまえば経営上、大きな打撃となる。CBT ならパソコンやタブレットを用意しなければならないし、Speaking が対面なら面接官が必要だ。各実施団体は手探りで準備を進めなければならない。

●TOEIC 受験生への影響は？

当然、TOEIC を受験する予定で対策をしていた受験生にとっては青天の霹靂だろう。TOEIC を受験予定だった受験生は他の検定へ変更することが必要だ。

なお、経済的困難者や病気、離島僻地居住者・通学者などの例外措置の対象で、今年度すでに受験料を支払い、TOEIC を受験し一定の成績を収めている受験生においては、不利益が生じないように、その試験結果は 2020 年度の例外措置対象に含めると、大学入試センターのリリースならびに柴山文部科学大臣の記者会見にて発表があった。

柴山文部科学大臣の記者会見では加えて、TOEIC の受験者割合についても触れられた。文部科学省が 2018 年度に高校を対象に実施した受験ニーズの調査結果では TOEIC のシェアは 1.8%だったとしたうえで、「全体の需要に照らせば TOEIC のシェアはそれほど大きくはないが、TOEIC の受験を目指していた方にとっては残念なことである」と語った。